

# 豪雪にもめげず春を呼ぶ声高らかに

◇ 豪 雪 特 集 ◇

川口町東部



川口町公民館報

**公民館報**

第 63 号

発行人 星 野 輝 政  
編集人 金子 真  
印刷所 山田堂印刷所

暮れの三十一日から降りだした雪は、一月いっぱい降り続き、稀れにみる豪雪となつた。本年の雪は里雪又は集中豪雪と称されて、例年雪の少ない三条、見附方面が多かつたこのため上信越線が長期間に亘り不通となり、県内の国道県道も至るところで車輛の運行がストップした。

当町においても積雪四米二〇を越え各所で雪崩が起り、学童が下敷になつたり、信濃川の水面に六尺も雪が積り渡船場の運行が不能となつた。山間地の部落は道がなく急激な診療もできず完全に孤立した。

東部の市街地も雪の大山となつて引込電線や電話線が頭上へひつかかつて歩けない、東北電力は感電事故防止に懸命であつた。

この未曽有の豪雪に対し新潟県においては災害救助法の適用を決定、第一次から第四次に亘つて豪雪市町村に災害救助法を適用した。

当町の町長、議長はいち早く出県、知事、副知事は、関係各課に対して豪雪状況を迅速に陳情した結果第二次決定で救助法の適用を受けた。続いて自衛隊の救援も要請したところ、二月九日夜、八戸市の第三十九普通科連隊が長岡副連隊長を隊長として百三十名を来援した。川口中学校を宿舎にして、国道、県道の啓発、市街地の除雪、雪崩地域での防止作業に活躍して民生の安定に大きく尽くすとともに自衛隊の真価も、遺憾なく発揮して二月十八日帰隊した。

も受入れ態勢に意を注いだが東部部落民や八郎場、木沢部落民、婦人会の協力奉仕はまことに申分なく、隊員から非常に喜ばれ感謝された。

**岡村昭子さん 全国青研に**

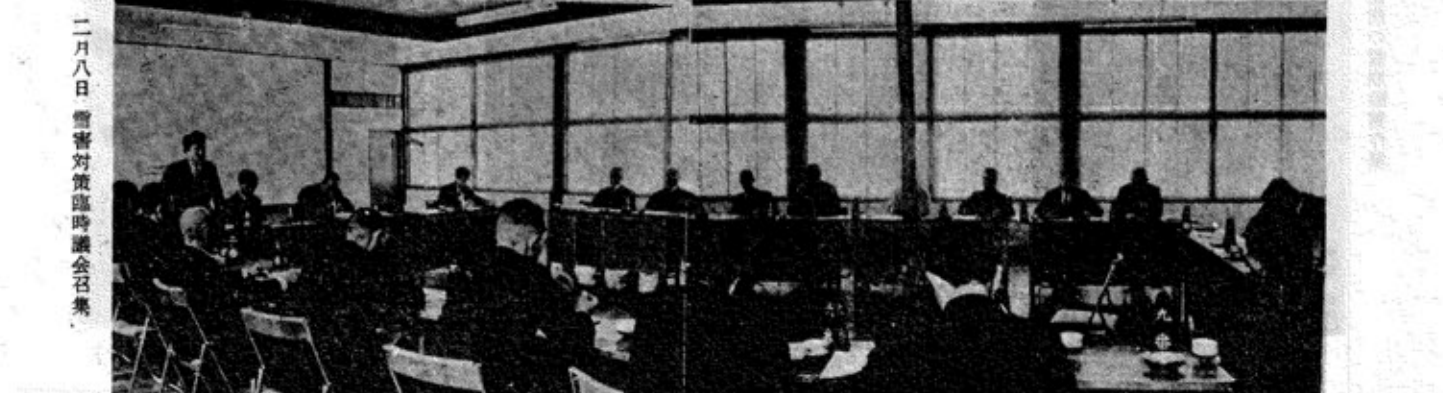
昨年町青年連絡協議会が冬季出張の実態調査を行ない、それにもとづいて青年の取りむく問題を究明しようとして長期に亘つて調査学習を続けて来た。この成果を県の要請により去る二月十四日新潟市において県青年実業発表大会に岡村昭子さん(川口農協勤務)が参加し川口青研の名をひびかせたが、次いで選ばれて県代表として全国青研に三月一日から四日まで東京の日本青年会館において約三〇〇〇人の参加者を得て開催された大会に川口青研の調査の結果を発表した。今後一層の活躍を期待したいものである。

**川口中(部)初優勝かざる**

県距離競走選手権大会 去る二月十四日小千谷市において新潟県距離競走選手権大会が開催され、中学生の部に出場した川口中学校スキー部は県下の強豪をふり切つてみごと初優勝をかざつた。

記録と出場選手は次のとおり  
記録一位川口中チーム  
一時間五分三三秒(24キロ)  
選手名 佐次 吉雄  
関 健次  
星野 忠義  
山吉 和司

なお中越大会でも好成绩をあげている。



屋根の雪降しに懸命な人々(東部) 埋まつた駅前通り 雪の山で家が見えなくなつた(扇屋前から駅通り)

# 除雪作業応援とくろうさまでしん

自 2月9日  
八戸市 自衛隊一二〇名来町 至2月18日

「体に気をつけて、しっかりと東部の除雪と、八郎場、対策本部の山田副連隊長に感謝の言葉を述べさせていただきます。」と、川口町の町長が、八戸市に自衛隊一二〇名を来援していただき、感謝の言葉を述べた。また、川口町の町長が、八戸市に自衛隊一二〇名を来援していただき、感謝の言葉を述べた。また、川口町の町長が、八戸市に自衛隊一二〇名を来援していただき、感謝の言葉を述べた。

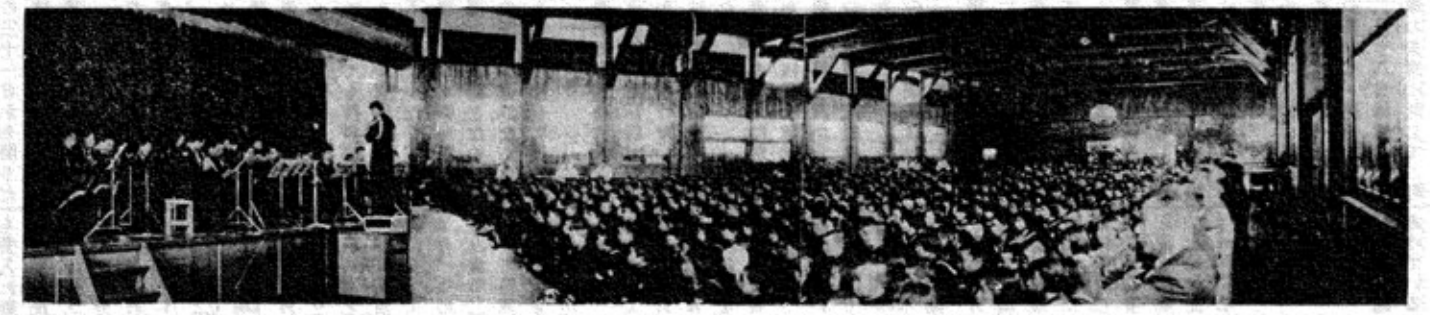


長岡二佐 第9師団師団長 第39普通科連隊副連隊長



除雪のおわつた中心部

←左 作業開始前の整列



自衛隊による吹奏楽 2月13日(川口中学校で)



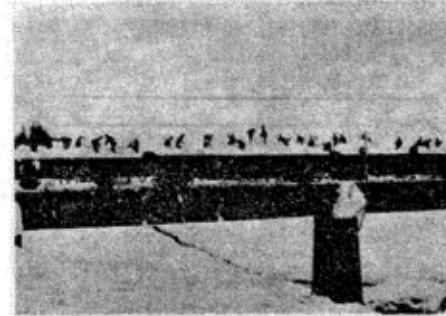
川合神社前の雪崩除雪作業



自衛隊員町民と懸命の作業 (渡辺薬舗前より)



工夫された雪積み(扇屋前で)



国鉄の除雪作業 飯山線鉄橋から川へ



列車をまつ自衛隊員。(ホームで)



扇屋前で(自衛隊帰る日)